

巻頭言

アフターコロナ 2023 年

徳島赤十字病院 事務部長 井織 一浩

院内医学雑誌が1996年初版発行され今回で第29巻の発刊となりました。業務多忙の中、今年度も多くの研究活動により投稿いただいたことに深く感謝申し上げます。

さて、2023年度も様々な出来事がありました。3月に開催されましたWBC、侍ジャパン。ラズ・ヌートバー選手や大谷翔平選手らの活躍により“世界一”になったことは皆さんの記憶に刻みつけられ誇らしく感じたことだと思います。試合内容もさながら、それに至るまでの行動、おもてなし、お辞儀、リスペクト、フェアプレーなどを見ることにより、やっぱり日本は素晴らしい国だと感じ、誇りに思えたことでしょう。

2020年より世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症は私達の生活様式、社会、医療の常識や前提を大きく変えてしまいました。流行当初には、“院内クラスターが発生した医療機関は感染対策が出来ていない施設”と見なされ、その対策や感染拡大を防ぐために職員や家族はとてつ大きなプレッシャーと戦ってきました。2023年5月には法律上の位置付けが「5類」となり社会的には行動制限の緩和が行われましたが、今以て感染症対策が自己管理として身に付けさせられマスクをしながら言葉少なに行動する、これが当たり前の光景となってしまいました。新型コロナウイルス感染症の大きな危機は脱したものの終息する気配は未だ見えず、今後新たな感染症にも備える対応も重要となってきています。

今回の院内医学雑誌発刊にあたり、研究活動や論文を書くということは多くの労力と時間、大変な努力が必要とされました。しかし、その研究活動を言語化し、自らの言葉で人に伝える過程は自他ともにとてつ大きな財産となります。この過程で得たものは自らの成長だけではなく、次に続く若手の育成にも大きく影響を与えることとなります。今後も多くの研究活動報告がなされ、社会的貢献に資することを願います。

最後に、投稿者、査読者並びに本編集に携わったすべての関係者各位に厚く感謝の意を表するとともに、医師だけでなくメディカルスタッフや事務職員を含めた全職員が一堂に会することができるこの院内医学雑誌がさらに充実していくことを期待しています。

